研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-730	A-154	21-059	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Effects of Alcohol Consumption and Smoking on the Onset of Hypertension in a Long-Term Longitudinal Study in a Male Workers' Cohort
男性労働者コホートにおける飲酒と喫煙が高血圧発症に及ぼす影響に関する長期縦断研究

執筆者

Nagao T, Nogawa K, Sakata K, Morimoto H, Morita K, Watanabe Y, Suwazono Y.

掲載誌

Int J Environ Res Public Health. 2021 Nov 10;18(22):11781. doi: 10.3390/ijerph182211781.

キーワード	PMID
飲酒、喫煙、高血圧、長期縦断研究、労働者コホート	34831535

要　旨

目的：長期縦断研究において、飲酒と喫煙が高血圧の発症に及ぼす量反応関係、ならびに飲酒と喫煙が高血圧の発症に及ぼす相乗的な影響を明らかにする。

方法：日本の 1 企業に属する 7511 人の非高血圧男性労働者を対象とした。このコホート研究は毎年の労働者健康診断の結果を用いて 2002 年から 2010 年までの 8 年間にわたり行われた。エンドポイントである高血圧の発症は収縮期血圧 140mmHg、拡張期血圧 90mmHg、または降圧剤の使用とした。飲酒は頻度と量から 1 週間の摂取量を算出し、5 つのカテゴリーに分けた（g/週；0、1-76、77（3.5 合）-153、154（7.0 合）-307、308（14.0 合）。喫煙本数は 4 つのカテゴリーに分けた（本／日；0、1-10、11-20、21）。毎年の調査データは、飲酒、喫煙、年齢、肥満度、仕事のシフトタイプ、習慣的な運動、血液検査の測定値を統計モデルに含めたプール型ロジスティック回帰によって解析した。

結果：対象者の平均年齢は 41.3 歳で、飲酒量は平均 110g/週（5.0 合/週）、喫煙率は 57.9%だった。追跡期間中に 2,351 人（31.3%）が高血圧を発症した。飲酒量が 154g（7.0 合）/週未満であれば、喫煙者、非喫煙者ともに高血圧発症リスクに有意差はなかった。しかしながら、禁酒者かつ非喫煙者と比較し、飲酒量が 154g/週以上の場合は非喫煙者での高血圧発症の調整オッズ比（95%信頼区間）は 1.51（1.27-1.79）、喫煙者では 1.81（1.54-2.11）であり、飲酒と喫煙の相互作用が確認された。

結論：
飲酒と喫煙が高血圧発症に相乗的な健康影響を及ぼすことが確認された。本研究は高血圧の予防に有用な情報を提供するものであり、飲酒と喫煙を同時に減少させることで高血圧のリスクを大きく低下させる可能性がある。